

震災によって交通空白となった地域における地域公共交通確保実証事業の概要

応募様式A

震災による交通空白地域共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	一般社団法人すずバス
事業実施地域	珠州市（真浦地区、馬縹・高屋地区）
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ 商業・農業
共創パートナー	めだか交通・珠州市・珠州市総合病院(他市内医院)・珠洲商工会議所・地域住民
運行形態	①デマンド交通 ②一般乗用旅客自動車運送事業
運行主体	有限会社めだか交通

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

令和 6 年能登半島地震の発生により、珠州市では甚大な被害が生じている。上下水道や道路といった基幹インフラの復旧には時間を要すると予想されており、多くの市民が二次避難したものの、被災地での生活を継続する住民も多い。こうした中、商店や病院、学校などの施設が再開されているほか、仮設住宅の完成も進んでいる一方で、国道 2 4 9 号線は寸断されており、市内での公共交通が行き届かず、特に真浦地区、馬縹・高屋地区においては震災によって交通空白地域となっていることから、今後はそのような地域における移動手段の確保が重要となる。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

無

運輸局・運輸支局への事前相談

北陸信越運輸局石川運輸支局

令和 5 年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

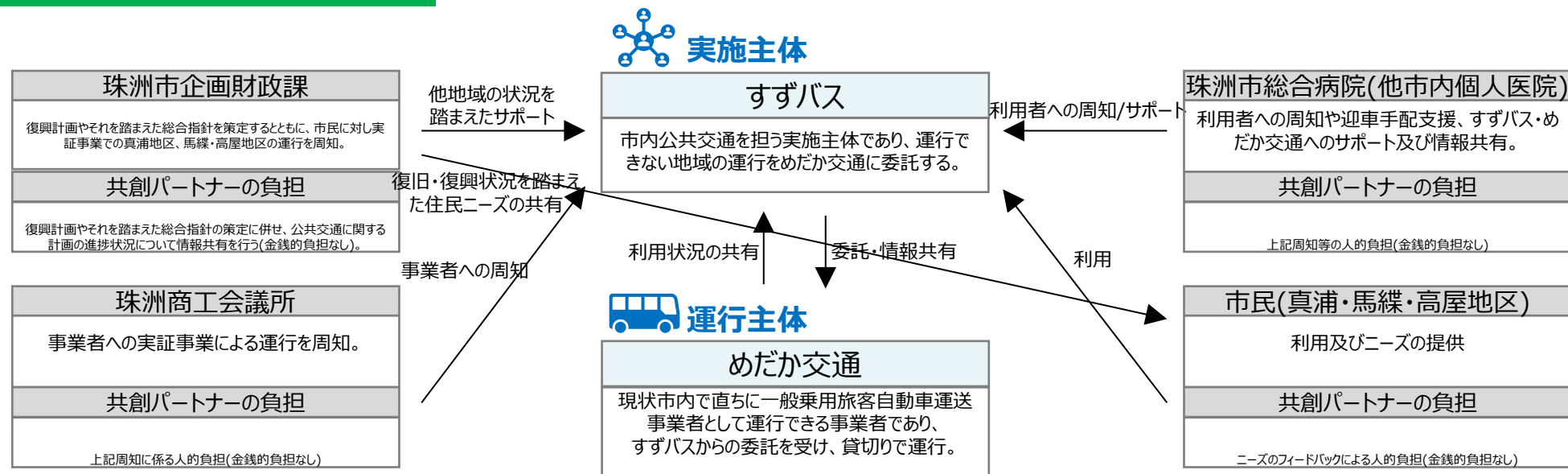
無

震災によって交通空白となった地域における地域公共交通確保実証事業の概要

応募様式A

震災による交通空白地域共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

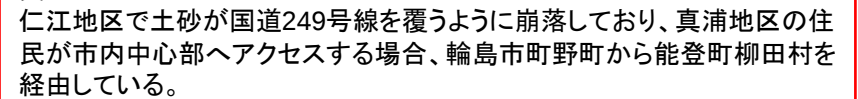
国道249号線は寸断されており、市内での公共交通が行き届かず、特に真浦地区、馬縹・高屋地区においては震災によって交通空白地域となっている。本来であれば市内公共交通を担う一般社団法人すずバスが運行すべきところ、道路状況やすずバスの人員・車両数の問題もあり、前述の地区では運行を行うことができていない。このような地区での震災時における運行をめだか交通に委託し、交通需要を把握する。なお、運行便数は両地区週1便を想定している。

(地域の関係者との連携・協働)

地域の関係者が参画し様々な連携や協働を図り、震災によって交通空白となった地域での交通需要を把握することで、今後も大規模な地震の発生が想定される本市の公共交通のサステナビリティやレジリエンスを高める。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

当該事業は市内公共交通を担うすずバスが実施主体となり、以前から協力関係にあるめだか交通が運行主体として行われるものであり、関係性は良好である。



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
すずバス	補助金交付申請		実証運行補助・サポート								
めだか交通			車両購入		実証運行						
珠洲市	復興計画・総合指針の策定、										
珠洲商工会議所				事業者への周知							
珠洲市総合病院 (他市内医院)				利用者への周知・迎車手配支援、連携主体への情報共有							
住民				利用及びニーズの提供							

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

本実証事業において震災によって交通空白となった地域での交通需要を把握することで、今後も大規模な地震の発生が想定される本市の公共交通のサステナビリティやレジリエンスを高めることが可能となる。また、震災によって交通空白となった地域の住民がこのタクシーを利用することで、通いなれた商店での買い物、病院での受診を通じ、震災発生時から失われている日常を一步步ではあるが着実に取り戻すことが可能となる。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

本事業によってタクシーを利用する住民は市民の中でも少数ではあるが、本事業を通じ今後も大規模な地震の発生が想定される本市の公共交通のサステナビリティやレジリエンスを高めることが可能となることに加えて、震災からの復旧においても公共交通を利用できるという市民の安心感を醸成することができる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

国道249号線の復旧の目途はたっていないが、復旧した場合はバス本来のルート可能な限り運行する。この事業はあくまで震災時の代替的な公共交通という役割を実証する事業であることから、次年度以降、実証事業の対象地区以外でも活用できるよう検討する。また、資金面に関しては本来市内公共交通の無償化を掲げ立ち上がったという経緯のあるすずバスが担い、人材面についてはこれまでめだか交通との連携があることから、平素からすずバスとめだか交通に加え、珠洲市や珠洲商工会議所等との連携や情報共有を密にし、発災時に即応できるよう備えることで、公共交通のサステナビリティやレジリエンスを高める。

資金面	市内公共交通を担うすずバスが資金を確保する。発災時の資金については、発災により運行できないことにより不要となる経費をめだか交通に委託し資金を充てる。
人材面（運転手の確保）	平素からの連携による運転手の確保に加え、発災時においても可能な限り公共交通を維持することで運転手の離職を防ぐ。